

医療法人財団 織本病院 広報誌

## 月刊 織本

4

2018年4月1日 vol.284

発行 医療法人財団 織本病院  
 印刷 〒204-0002  
 東京都清瀬市旭が丘 1-261  
 TEL 042-491-2121  
 URL <http://www.orimoto.or.jp/>  
 発行人 高木 由利



カラスノエンドウ

## 3.11 あれから7年経って...

理事長 高木 由利



急に桜が咲き始め、春到来です。自宅近くの桜並木の下でスケッチをしているご高齢の紳士の姿がとてもステキでした。

\* \* \*

2011年3月11日、14時46分。お隣の中学校の学校保健委員会から病院の自室に戻ってコーヒーをひと口飲もうとした瞬間に大地が揺れ、コーヒーをこぼしたまま私は4階の透析センターに走りました。体が大きく揺さぶられ廊下の壁にぶつかり、それでも走りました。透析センターでは日頃の防災訓練のおかげで患者さん達は頭から毛布をかぶり、あの揺れがあっても透析機械は全く揺さぶられず、スタッフ達は声を掛け合って冷静でした。ある女性患者さんが、“あっ！由利先生がいる。嬉しい！”と言って毛布の間から可愛い笑顔を投げかけてくれたのが7年前のことだったのです。この大きな地震で清瀬も随分被害があったと聞きましたが、当院は全ての機能が守られ医師会の先生から“織本病院は聖域なので神様に守られているんです！”とまで言って頂きました。

その秋、私の母に“大好きな東北を励ましたい。高齢の自分ができることは東北に旅をして泊まったり、買い物してお金を落とすことだと思うので、一緒に旅

行してほしい”と言われ、11月に福島、翌年の6月に岩手に行きました。当時84歳の母の東北の方々に対する深い想いが現地の方々の心を動かし、あれから7年経った今でも心の交流は続いています。

先日NHKで現在の被災地の状況を見て複雑な気持ちになりました。被災地で出会った方々と連絡を取ると、“被災地を覚えていて下さることが本当に嬉しいです。私達は日本中の方々からたくさんの愛情を頂きました。でも頂いてばかりいてはいけません。しっかり立ち上がって日本中の方々に感謝して力強く生きていくのが大切だと思っています。”とお言葉を頂きました。被災していない私が励まされていると感じます。

3.11を思う時、私自身も更に力強く生きていかなければと強く感じています。



2012年6月2日  
 直接義援金をお届けするために、母と遠野被災地支援ボランティアネットワーク“遠野まごころネット”を訪問

# Is there a doctor on board?

## —機内にお医者様はいらっしゃいますか?—



透析センター担当医 宮津 秀昌 先生

「You might know,sir I'm a medical doctor in Japan, so at this situation I'd like to go back and work as a volunteer... no,I've got to go.」

(ご存知かもしれませんが自分は日本では医師です。ですのでこの状況では祖国に帰ってボランティアとして働きた…いえ戻らねばなりません。)

「Sure,we all know what kind of person you are,go do what you should.」

(お前がどんな男かは知っている。やるべきことをやって来い。)

\* \* \*

CNNが「Tsunami,Tsunami」を連呼し、繰り返し流される遠く太平洋の向こう側にある日本の惨状に呆然とし、数日間の遡巡の後、dispatcher room (パイロットがフライト前に事前説明を受けたり打ち合わせ等を行う場所) を抜けながら、chief captain (キャプテンの中でも上級ランクのパイロット) に休職の相談をしたのは今から7年前のちょうど今頃でした。

自分の仕事はLAX (Los Angeles 空港) をベースに、主にBoeing737NGを飛ばすPILOTです。生きてpax (乗客) とcrew (乗員) を地上に戻してあげることが最優先義務で、定刻に着くのがその次に大事な目標です。

日本で医学部を終了し医師国家試験合格、その後、初期研修、専門研修も受けましたが、元来落ち着きのな性格が災いしたのかどうしたわけかそれで終わらず、Californiaの航空大学も卒業し、航空機操縦士の国家試験に合格。結局人生の多くを、先生と呼ばれて病院にいるより、ずっと長い期間Wingマークをつけて生きることとなり、いまやcaptainと呼ばれてアメリカの空にいます。

人の命を預かり、頭脳とスキルを使い、paxもcrewもship (機体) も朝と変わらぬ状態で行くべきところに行かせ、帰るべきところに帰してあげる、そして自分自身がshipと共に完璧な機械の一部となり、何事もなく一日を終えられること

こそ誇りであり、そういう生き方に非常に満足しておりました。

“休むことも義務”といわれるパイロットという職種で、しかもアメリカの企業ですので休暇は十分にあり、そういった休暇にたまに日本に帰国して北海道の僻地の病院で医師をやるくらいで、それほど積極的に医師として勤務していたわけではありませんでした。

しかし、太平洋の向こうの三陸沖の惨状を見て、祖国のために何かしないといけないと突き動かされ、会社に6週間の休職許可をもらい、日本に一時帰国することにした日は、なんだかもう遠い昔のこのような気がします。

現地でどんなことがあったか、どんな現場であったかは軽々しく書くことではないので今回は割愛しますが、小児を含む多くの犠牲者を目の当たりにして自分は肉体的よりも何より精神的に疲弊してしまいました。あきらかに抑うつ状態となりパイロットとしての職務を果たすのに適切ではない状態となり、医師としての6週間のボランティア活動の後にも精神的なりハビリが必要と判断して、しばらくの間日本に滞在することにしました。



Captain  
MIYATSU



パイロットは身体の健康さは言うまでもありませんが、家を出るときに妻やガールフレンドとケンカしたら「その日はフライトは休め！」とはっきり言われるくらい精神的に穏やかで安静、頭脳は明晰で快活でなくてはフライトは許されません。（そうでないとケンカしてイライラしたパイロットが正常な判断をできないかもしれない、普段とは違う乱暴な動作をしてしまうかも etc. という懸念があるので連邦航空法で禁止されている。）

被災地への任は、自衛隊の方々と一緒に行いましたので、それがご縁で自分は防衛医科大学出身ではないのですが防衛医科大学病院のある所沢を仮の居として、しばらく日本でフライトから離れることになりました。当時の自分の状態を見かねた航空自衛隊の医官の上官などが、「しばらくは子どもの亡くならない科が良いのでは」というご教示を下さり、もともと専門は小児科の腎臓や小児透析などを中心に診ていたので、そのまま大人の慢性腎不全、すなわち透析医療を診ることとなりました。紹介された病院で透析医療の専門研修を再度受けながら文字通りの OJT (on-the-job オンザジョブ トレーニング / 実際の業務を通して行う教育訓練) でした。

大人の透析医療を忙しく OJT で学ぼううちに、その後しばらくかかりましたが精神的にも落ち着き、無事に2年ほど後にフライトラインに復帰できましたが、縁とは不思議なものでそれがきっかけであればからは定期的に帰国し、日本でお医者さんをやる時は透析医療をメインで担当することになって数年が経ちます。あの OJT の2年近くは、何かを思い出させないくらいにするために、意図的に忙しくさせてくれたのだろうと、自分も人を指導する立場になった今ならわかります。

先日、日本人の女性と結婚いたしました。女性と言っても入籍時まだ大学生の女の子でしたので、卒業するまではそばにいてやろうとしばらく生活の拠点のメインを所沢とし、日本にいたことがこの数年は多くなりました。フライトスーツはスクラブに換えましたが、きびきびと働く同僚の優秀な コックピット クルー スマート cockpit crew, smart (頭が切れる) でプロフェッショナルを感じさせる メカニック mechanic、やさしい笑顔の FA (flight attendant フライト アテンダント) / スチュワーデス) がいる職場から、きびきびと働く同僚の優秀な ドクター Doctor (医師)、スマート smart (頭が切れる) でプロフェッショナルを感じさせる メディカル エンジニア ME (medical engineer / 臨床工学技士)、やさしい笑

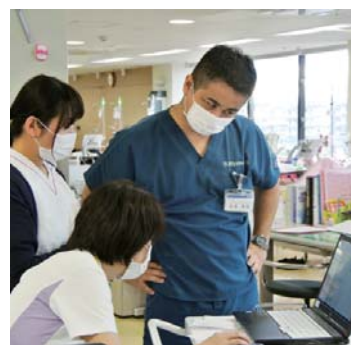
顔の ナース Ns (nurse / 看護師) がいる職場に替わっただけで、人の命を預かり、鍛えられた頭脳とスキルを使い、Pt (患者) もスタッフもハードウェアも平穏な状態で帰して (返して) あげる、何事もなく一日を終えるそれが誇りという、考えてみたら本質的には「人の命を預かる」同じことをやっているわけです。そういう事情を理解している透析室のスタッフが、透析室でスクラブを着ていても キャプテン captain と呼んでくれるのは素直に嬉しいです。

自分は空で本当に偉大な先輩方、優秀な同僚、献身的なクルーに恵まれておりますが、ここ織本病院でも、偉大な先輩方、優秀な同僚、献身的なスタッフに恵まれて感謝しております。そして、アメリカでも日本でも、空でも病院でも、そのような方々に敬意を払い一緒に働けることを誇らしく思っています。私は上記の通り色々な病院に勤務に行きましたが、織本病院のスタッフは本当に忠実で誠実、優秀な方々です。

このようなバックグラウンドですので、定期的にフライトや技能維持訓練でアメリカに戻るといふ医師としては大変にわがままな条件にもかかわらず、継続して雇用してくださっている由利先生には特に感謝致しております。（よくこんな変わった履歴の者を採用しましたね！（笑））

伝統ある織本病院の名を汚さぬよう、今後も患者の命とスタッフを守るという任務をまっすぐに果たしたいと思います。

See you in the sky and / or in the HD room  
— 空や透析室で会いましょう —



CAPT . MIYATSU



Doctor  
MIYATSU

外来診療表

午前受付 8:30 ~ 11:30 (診療開始 9:00) / 午後受付 13:30 ~ 16:30 (診療開始 14:00)

		月	火	水	木	金	土
内科	午前	齋藤 圭子 (9:30~) 下村 有希子	齋藤 圭子 (9:30~) 担当医	奥村 昌夫 金子 雪絵	齋藤 圭子 (9:30~) 矢島 愛治 (9:30~) 下村 有希子	大徳 聖哲 (9:30~) 担当医	高橋 隆一 (第1,3) 西村 英樹 (第2,4)
	午後	担当医	担当医	金子 雪絵 (~15:00) 担当医	矢島 愛治	下村 有希子 担当医	坂東 興 (第2,4) 市川 健一郎 (第2) 村瀬 忠 (第3,5)
外科	午前	藤木 達雄	藤木 達雄	担当医	担当医	担当医	藤木 達雄
	午後	担当医	担当医	担当医	担当医	藤木 達雄	担当医
呼吸器科	午前	齋藤 圭子 (9:30~)	齋藤 圭子 (9:30~)	奥村 昌夫	齋藤 圭子 (9:30~)		
	午後						
循環器科	午前	藤木 達雄	藤木 達雄		矢島 愛治 (9:30~)		高橋 (第1,3)・西村 (第2,4)
	午後				矢島 愛治	藤木 達雄	坂東 (第2,4)・市川 (第2)
消化器科	午前	生形 之男 (第2,4) (~10:00)			池田 宜昭 (第2除)		
	午後						
腎臓内科	午前	下村 有希子			下村 有希子		
	午後					下村 有希子	
血液内科	午前						
	午後			村瀬 忠 (第2,4)			村瀬 忠 (第3,5)
脳神経外科	午前		小林 啓一			佐々木 重嘉 (9:30~)	順天堂大脳外 (第2除)
	午後		小林 啓一 (~15:00)				
整形外科	午前				菊地 健	新藤 正輝 (月1回)	新藤 正輝 (月1回)
	午後					新藤 正輝 (月1回)	新藤 正輝 (月1回)
心臓血管外科	午前	藤木 達雄	藤木 達雄				藤木 達雄
	午後					藤木 達雄	
泌尿器科	午前		佐々木 秀郎			大徳 聖哲 (9:30~)	
	午後		佐々木 秀郎				
皮膚科	午前			島田 俊嗣			
	午後			島田 俊嗣			
内視鏡検査	午前	生形 之男 (第2,4)		須藤 大輔	池田 宜昭 (第2除)		趙 (第1,3,5)・谷口 (第2,4)
	午後				須田 浩晃 (第2,4,5)		
専門外来	腎不全外来	午前	高木 由利	高木 由利	高木 由利		
	糖尿病外来	午前			石井 主税		
		午後					勝盛 弘三 (第2,4) 佐藤 潤一
	乳腺外来	午前					杉山 迪子 (月1~2回)
	睡眠時無呼吸外来	午前	齋藤 圭子 (9:30~)	齋藤 圭子 (9:30~)		齋藤 圭子 (9:30~)	
	禁煙外来	午後		齋藤 圭子			
	サラリーマン外来	午前					高木 由利 (第4)
血管外科 特別外来	午後			萩原 博道 (第4)			

※ 赤字の枠は予約可能です。(腎不全外来は完全予約制) 尚、休診情報などの詳細はお電話または当院ホームページにてご確認ください。

第199回 腎疾患・糖尿病ゼミナール

なぜ食事療法が治療の基本なのか？ その5

栄養科からのワンポイントアドバイス

“でんぷん坦々つけ麺”を作ろう!!

管理栄養士：小澤 牧子 / 腎不全教育普及指導員：坂内 繁子

2018年 5月10日(木) 午後1:00 ~ 2:00  
オリモトホール (織本病院 4F) 予約不要・参加費無料

腎臓内科：高木 由利



豆ザイルによる  
健康体操も  
やって  
ます!

レシピ・  
試食付き